

みの～れと出会ってあつという間の10年でした

枝見さんは2011年4月に新設された小美玉市地域文化センターと、四季文化館のみのうれ企画実行委員長に就任しました。10年間毎月みのうれに通い続け、約200回も往復したとのこと。

枝見さんにみのうれとの出会いを聞いてみました。「安藤千賀さん」という知り合いのジャーナリストがいてその方が住民主体で活動しているみのうれを取材していました。当時山口館長が住民参画についてのアドバイザーを探しており、最初は安藤さんに声をかけていたそうですが、仕事との両立が難しくお断りしていました。そこでまちづくりについての知見があつた僕が紹介された…ということです」と懐かしそうに振り返っていました。

「みのうれに関わった10年は過ぎてしまえばあつという間でした。僕は1年任期ですが毎年次年度も引き受けて当然のよう思っていました。館長からも何も言われず、毎年4月に市長から辞令をいただいて続けてきましたね」と話してくれました。

一正直言つて山口館長から声をかけてもらつ前までは小美玉市の存在すら知りませんでした。そんなに大きな市でもない小美玉市が3館も公共ホールを持つていることに驚きましたね。それぞれ住民主導で意思決定をすると聞き、日本にこんなところがあつたんだと大変驚きました。企画実行委員会の始まる時間が19時30分からというのも働いている方が参加しやすい時間設定ですね。ただ会議が長引くと帰りの電車が無くなってしまふので車で来るようになってしまいました」と笑顔で語る枝見さん。

「コロナ禍になり、やろうと思つていたことができなかつたので、そこはすごく残念です。公共ホールは人が集い交わることが大きな目標なのにコロナ禍でコミュニケーションをとること自体が禁止になつてしまひました。コロナ禍によつて新しく変わつた社会の中で公共ホールがどう役割を果たしていくか、チャレンジが始まると思ひます。それを見守れないといふ意味でも離れるのは残念ですね」と少し心残りを語つてくれました。

一僕は行政と住民の協働をどう実現していくかがミッション。使命だと思つて取り組んできました。みのうれは実際に試せる場でもあつたし、実行する場でもあつた。考へていたことが間違いではなかつたという自信になりましたし学びの場でもありましたね。特に、みのうれで働いている人たちとは公務員。市の職員の人たちと一つの目標に向かつていくチャンスはなかなかないんですね。非常に面白かつたし、良い経験になりました。みんなそれぞれ一緒に頑張つてみると肌で感じることができました」と振り返る枝見さん。

「4月からのみのうれがどうなるか、気になるのでホームページをチェックしたりして追いかけるつもりです。行政、住民の皆さんには頑張つてもらいたいと思います」とエールを送つていただきました。

百花繚乱のこの美しい季節は出会いと別れの季節であります。枝見太朗さんは、文化芸術と住民をつなぐ推進役として、文化芸術を基軸とするまちづくりや、館の事業計画・運営に携わり、先月退任されました。みのるれを我が子のように可愛がっていたいた、東京都にお住まいの枝見太朗さんを取材します。



前 小美玉市地域文化コーディネーター

枝見太朗さん

「みの～れに関しての話は尽きないですよ」
と笑顔で語る枝見さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

山口茂徳館長
りありがとう
くの事を学ば
しております。
(藤田佐知子)